

2024 年度 日本トンボ学会大会（滋賀大会）

公開シンポジウム

みんなでつながろう！ひろげよう！トンボのいる自然
～トンボでつながる近江の水辺～



近年、環境省や地方自治体が発行する絶滅危惧種のリストには、昔は普通種だったトンボ類の名前がズラリと並びます。滋賀県のトンボの現状は？身近なトンボの生息環境である水田、池、水路などはどう変わってしまったのか？滋賀県や近隣の観察事例を中心に、今後どのようにトンボを保全すればよいのか？みんなで議論してみたいと思います！

場所

滋賀県立琵琶湖博物館ホール

住所：滋賀県草津市下物町 1091

日時

2024年 11月10日（日）14時～16時

講演

（氏名敬称略）

1. 河瀬 直幹

「滋賀県のトンボ（2010年代）」（琵琶湖博物館研究調査報告第30号）（2018年）の調査結果から現況を紹介し、その後の展開を説明します。

2. 渡邊 共則 ほか BBN 参加企業の皆さん

滋賀県には大面積の敷地をもつ企業が多く、構内のビオトープでトンボ類を保全する企業ネットワークがあります。その取り組みと成果を紹介します。

3. 大津市瀬田公園のトンボ観察グループの皆さん

瀬田公園で見られるトンボたちの写真集をご覧ください。

4. 青木 典司

希少種を含む多くのトンボ類の生息地が公園緑地に集中するようになった背景を兵庫県の公園緑地の調査データをもとに提示します。

5. 東川 航・末吉 正尚

滋賀県で減少しているミヤマアカネの個体群と生息環境のつながりについての調査結果を示し、トンボ類にとって重要な環境とそれらがどう配置されるべきか、提案します。

ディスカッション

上記の講演者に加えて、学会長の苅部治紀が参加して、滋賀県や全国の里地・里山のトンボ類を保全するために、今後の展開を議論します。

シンポジウムの進行・コーディネートは、牛島釈広が行います。

主催：2024 年度滋賀大会実行委員会

共催：滋賀県立琵琶湖博物館

協力：蜻蛉研究会・滋賀トンボ調査グループ・生物多様性びわ湖ネットワーク（BBN）

連絡先：日本トンボ学会滋賀大会大会実行委員 牛島釈広（うしじまときひろ）t-ussi@lago.co.jp

※ 当日までの企画調整の過程で、演者の発表順や講演内容、発表時間などを変更することがあります。ご了承ください。